○議員（１４番　小宮　教義君）　議長、最後。

○議長（初村　久藏君）　１４番、小宮教義君。

○議員（１４番　小宮　教義君）　その検討委員会ではだめということですけれども、長崎県も諫早市でしたか、７月頃、その国家賠償法関係でえらいもめたそうです。そして、特別に委員会を作って、そしてそれは果たして市のほうに瑕疵があったのか、なかったのかをこの調査をしていますので、そのような特別な委員会を作っての対応をぜひお願いをしたいと思います。

以上。

○議長（初村　久藏君）　これで小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開は１１時１０分からとします。

午前10時53分休憩

午前11時08分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　皆さん、おはようございます。新政会の春田新一でございます。

まず、質問に入る前に５月の市議会議員一般選挙において、市民の皆様の負託により議会へ送っていただきました。この場をお借りしまして改めてお礼を申し上げます。

さて、３期目の４年間地域活性化のため活動に邁進してまいりたいというふうに思っております。近年、気候変動により７月には県内でも記録的な大雨が続き、雲仙市では土砂崩れが発生して家屋２棟が押し流され、家族３人がお亡くなりになられました。心から御冥福をお祈り申し上げますとともに、被害に遭われた皆さんへお見舞いを申し上げます。また１日も早い復旧を願うものであります。

悲しいニュースばかりではなく、新型コロナウイルス禍の中で史上初の１年延期となった東京オリンピック・パラリンピック、大半の会場で無観客を余儀なくされ、期待をされておりました盛り上がりや経済効果は得られなかったものの、日本代表のアスリートの皆さんがコロナウイルスを吹き飛ばすかのように頑張ってくれました。感動したのは私だけではないというふうに思っております。

さて、市長に再選をされて１期目４年間を振り返りながら、新たな気持ちで市民の皆さんと協働で目標や方向性を共有しながら、人口減少や市民所得の低迷、地域活力の低下など課題について改善の道筋を明らかにしたいとの強い思いで、「人・産業・地域が輝く対馬市づくり」に向けて医療や福祉、介護、子育て支援をはじめ、産業の活性化と雇用の場創出、地域の特色を生かし

た地域づくりなど、様々な取組を推進されています。しかしながら、昨年度から国難ともいえる新型コロナ、相手の見えないウイルスと闘いながらの市政運営が続いております。

一方では、２０４０年問題については、本市の長期人口ビジョンから見える将来的な課題が山積をしております。合併前の昭和時代の１９６０年の人口は６万９，０００人をピークに減少を続け、現在の本市の人口は半減以下の３万人まで落ち込んでいるのが現状であります。人口減少は一番難しい問題で、特効薬がないとも言われています。本市での減少対策の一つとして、教育の重要性ではないかというふうに思います。

水産業など第一次産業の衰退が危ぶまれている中、親は子供に対し額に汗して稼ぎ出す産業に就けとは言いません。大手企業の会社に入り、老後まで安泰な人生を目指せと教育をされております。本市では第一次産業などへのきちんとした意識を持たせる教育が大切ではないかというふうに思います。第一次産業などを支える人材の育成が、本市では今後の大きな課題であり、新たな視点で取り組んでいかなければなりません。

また医療や介護、集落やインフラ維持確保策など諸課題にいち早く対応され、経済的発展と地域課題の解決に向けて、市長には初心を振り返りながら、熱い思いで今後取り組んでいただきたいというふうに思います。

大変、前置きが長くなりましたが、市政一般質問に移ります。

今回は１項目、２点について重点的にお伺いをします。

対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、戦略３、戦略４の２点について市長の見解を求めます。

まず、戦略３の、安心して結婚、出産、子育てができる環境整備についてでございます。市内の独身者の減少を少しでも食い止めるための出会いの場の設定、結婚後の子育てにかかるふれあいやつながり、教育、医療等への支援をするための具体的な取組についてお伺いをいたします。

次に、戦略４の高齢者が健康で生きがいが感じられる環境と地域づくりについてでございます。少子高齢化が進む地域において、見守り、交通、買い物支援等の整備と、シルバー人材センターの全島組織化、法人化など元気な高齢者が生きがいの持てる今後の取組についてお伺いをいたします。

以上、よろしくお願いをいたします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、安心して結婚、出産、子育てができる環境整備についてでございますが、対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略は国・県の方針に基づき、国や県と同様に切れ目ない地方創生社会の実現と人口減少抑制対策の指針として、令和元年度に策定し４つの分野において重点戦略及

び必要な施策、事業の基本的な考え方を示しております。

御質問がありました事業内容につきましては、本戦略では重点戦略３、安心して結婚、出産、子育てができる環境を創出する。重点戦略４、高齢者が健康で生きがいが感じられる環境を作り、安らぎのある地域を形成することを重点戦略として取組を進めているところであります。

独身者の減少を食い止める出会いの場の創出についてでございますが、具体的施策内容として縁結びプロジェクト事業を継続して実施しており、出会いの場の創出に取り組んでおります。この事業は社会福祉協議会や商工会青年部等との連携により、市内男女の未婚、晩婚化対策のため、出会いの場創出から交際、結婚までのフォローアップを実施しております。特に、フォローアップについてはアドバイザーによる婚活に向けた個別サポートなどを実施しておりまして、令和２年度は延べ４８８件の個別サポートを行い、６組の婚姻実績となっております。

また、本事業ではカップリング数を上げるための取組として、話し方、接し方、服装等のアドバイスを行う事前セミナーや、女性の参加を促すための魅力アップ講座など気軽に参加できる取組も進めているところであります。このような取組により、年間５組の婚姻数目標に対して、平成２９年度から毎年度６組の婚姻実績に至っており、一定の効果を上げてきたのではないかというふうに考えております。

また、結婚後の子育て、教育、医療等の事業につきましても各担当部署と連携し、現状の把握、施策の方向性の検討、具体的な施策内容を策定して取組を進めてまいりたいと考えております。

その関連として、令和３年度は結婚、出産、子育て、教育までの切れ目のない支援制度を取りまとめたパンフレットの策定を予定しております。まずは、現行の支援制度を市民へ分かりやすい形で周知しながら、そこから生まれてくる意見等を今後の取組につなげてまいりたいと考えております。

今後も、対馬市総合戦略の検証を毎年実施することで現状把握に努め、施策の方向性を検証し取組を進めてまいります。

次に、シルバー人材センターの全島組織化、法人化など元気な高齢者が生きがいの持てる今後の取組についてでございますが、令和元年度より活動範囲を対馬全域に拡大し、本部を対馬市社会福祉協議会厳原支所に、中支部を社協本所に、上支部を社協上対馬支所に設置し、職員６人体制で運営を行い、会員の確保及び業務の拡大を図っております。

令和２年度のシルバー人材センターの実績は、会員数が１６２人、延べ活動人数４，３２２人で目標であります年間延べ活動人数５，０００人に迫るなど、市民の皆様に浸透しつつあります。

シルバー人材センターの法人化につきましては、令和４年度中の一般社団法人設立に向けて社会福祉協議会と協議を重ねているところであります。今後は、高齢者の豊かな経験、知識や技能を生かせる就業の場を提供することで、生きがいの確保や福祉の増進を図り、高齢者の能力を大

いに発揮できる活力ある地域社会づくりを目指して、さらなる会員の確保及びサービス内容の充実を図りながら、業務の拡大を図ってまいります。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　どうもありがとうございました。令和元年度からのこの戦略を策定されて進めておられる事業でございます。

総合戦略ということで、少し議長にお断りをいたしておきます。関連で横にずれる可能性があるかも分かりませんので、かなりずれる時には注意をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

先ほど答弁をいただきました、この質問も私２回目になるというふうに思います。１回目は会派代表質問でさせていただきました。対馬の中には、今、総合計画そして総合戦略、長期人口ビジョンあるいは全協でありました過疎地域対策計画、そういう計画にのっとって進めておられる。この事業もほかの事業もそうなんですが、やはりコロナでかなりの手薄になっているんじゃないかなというところも見受けられるような状況であります。

人が集まれないというような状況の中で、こういうような施策を立てて運営をなされているのも大変なことでありましょうし、また市民の皆さんも大変、交流ができない、いろいろな意見交換ができないということで非常に今苦しんでおられるところは、みな同じだというふうに思っております。

まず、１点目でお尋ねをしたいのが、出産の問題でありますが、安心出産支援についてでございます。私、上対馬出身でございますので、上対馬病院からの産婦人科がなくなったということで、大変、これも１回、前市長の時に質問をいたしましたが、非常に安心して子供を産むということが上対馬のほうからは大変厳しい状況の中にあります。

しかしながら、この島の距離を見ても、人口割を見てもやはり今の市政が妥当じゃないかなというふうに思いますが、その中でやはり平等に、格差がないように平等にできる方法はないか、これをやはり少し考えていただいてやっていかないと、気苦労をされている。そして、また人口減少に歯止めをかけるためにも、この出産というのが一番大事なところになってきます。

今回の質問でも分かりますように、出産、子育て、それからシルバー人材センター、シルバーということで高齢者が生きがいを持てる地域づくりということで質問をしております。お互いにかみ合っていって、初めて対馬の人口の減少が食い止められるわけですから、やはりそこはそこできちんとしたものを行政側は組み立てていかなければいけないというふうに思っております。

上対馬病院から分娩が不能になったのが平成２４年からですね。２４年から分娩は元いづはら病院のほうに移っております。それからあとは対馬病院ということで平成２７年から対馬病院で

今、分娩がなされております。上対馬病院になぜ産婦人科がないのかということは、もう前回の質問の折によくお尋ねをいたしましたが、やはり産科の先生がいないということで、それとこの出産の人数を見てみますと少ない、こういうことは分かりはするんですが、やはり私も男性ですから子供を産むのは分かりませんが、非常に家族の気苦労そういうものがあると思うんですよね。だから、自分の家族がそういうふうになったときにどうなのか、そこら辺も考えながらもう少し支援を、産婦人科を上対馬病院に持ってくることは今のところ不可能であるんですから、その支援をしていただけなければいけないと思うんですが、そこを何か市長のほうからあればお願いします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　議員の質問の中にもちょっとありましたように、上対馬地域の出産関係の助成につきましては、議員も御承知のことかと思いますけども、事前に妊婦さん、そして関係者の方たちまで含めて、事前にこちらのほうの宿泊をされる場合の補助等を、今、実施をしているところであります。もしここら辺につきまして、まだ支援の内容が薄いとか、もう少しどういうふうにしていただきたいとか、そういう具体的な内容があれば、こちらといたしましてもできる限りの対応はしてまいりたいというふうには思ってはおりますが、今回、事例で車中でのお産があったということも聞いておりますが、できるだけ早い段階でそういう関係の宿泊所に宿泊されて、準備をしたほうがよいというふうに私も思います。

ただ、そこに先ほど申しましたように、もう少し市の助成等が不足するところがあれば、先ほど申しましたように、またいろいろと御助言等をいただければというふうに思います。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　今、市長がおっしゃられたように支援はまだ拡充はできるんだということですので、またそこら辺は、よく協議をされて今後お願いに来たときには、よろしくお願いをしておきます。

一番大事なのが、今も市長も言われましたが搬送中に、今まで４名の方が車の中の出産ということになっているかと思います。そういうことで、こういうことがあってはならない安心安全な病院でなければいけないわけですから、命を守るために市長も県議も国会議員もいらっしゃるわけですから、そこはきちんとしたものを作り上げて、またこの上対馬から対馬病院まで距離がありますので、そこら辺も考慮しながらもっともっと大きな支援をしていただきたいなというふうに思います。

また里帰りで帰って来ても、どうしても上対馬、上県北部の皆さんは福岡に嫁さんに行ってあっても、なかなか帰って来られない。帰って来ても対馬病院まで行かなければいけない。その距

離というものを考えれば、はやりこっちからお母さん方が行くような条件になっていくわけですから、そこら辺も少し、ああ、自分が生まれたところで出産ができてよかったということが喜ばれるような施策にしていかなければいけないのではないかなというふうに思います。

そこの中で一つ、これは先ほど市長も答弁されましたが、出産間近な妊婦さんについては、産婦人科の医師派遣事業などでよく分かるわけですから、そこら辺を対馬病院といきいき健康課担当部と、それから保健師さんと協力していけば、連携を取っていけば車の中で出産することは私はないと思うんですが、なかなかそこが、やはり本人の意向もありましょうし難しいところもありますが、そこ辺が少し不足をしているんじゃないかな、お金の問題だけじゃないんです。やっぱり妊婦さんは自分の子供を対馬の宝として生みたいんだという気持ちがあってやっているわけですから、そこを少し行政側もそこら辺に力を入れて連絡、調整をしていく。

これは毎日生まれているわけでもありませんから、余裕があると思いますので、部長、その辺はどうでしょうか。１点お願いします。

○議長（初村　久藏君）　健康づくり推進部長、松井惠夫君。

○健康づくり推進部長（松井　惠夫君）　本年度から子育て世代包括支援センターというのを立ち上げております。これで子育てしやすいような環境を作るということで、上対馬地域の出産につきましても病院、市の保健師、本人さんとの連携をして進めていきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　それ以上に妊婦の方は大変ですから、力強い御支援をいただきますようにお願いをしておきます。救急車でも５０分で行けませんので、やはり１時間２０分くらいかかりますので、そういうこともありますし、道路事情もありましょうが、いろいろそういうことも勘案しながら支援の協力を求めるものであります。よろしくお願いいたします。

それから、次に子育てができる環境づくりということで、さっき言いましたように子供が生まれて１歳になれば保育園に預けられる。そしてまた、保育園が終われば幼稚園、それから小学校、中学校と進んでいくわけですが、その中でこの自然豊かな対馬の中で育つ子供たちが、どのようなことを望んでいるのかというのは難しい問題であろうというふうに思いますが、今、保育所も認定こども園ということで上対馬には設置されて運営がなされております。そういうふうに豊玉もそういうふうになるんだろうというふうに思いますが、やはりそういうことをしながら子育てをしていく、そしてまた対馬の中で収入が少ない対馬、仕事が少ない対馬の中で一所懸命夫婦共々働いて子供を育てていく。

こういうことについては、今、大分改良はされたんじゃないかなあと。保育園から幼稚園、この辺は大分改良をされてきたんじゃないかなあというふうに思いますが、まだまだ我々にとりま

しても、市民にとりましても子供は島の宝でありますので、やはりしっかりした安全な教育体制が必要だというふうに思います。

それで、１点、教育長のほうにお尋ねをいたします。こども園で幼稚園はよく分かりますが、学校に上がってからの子供たちの精神面あるいは障害のある子供、あるいは学校に行かない不登校児童、そういうところは厳原に今度、市の直営でなされております。前回は「みちしるべ」という民間の有識者の方々が一所懸命やっておられましたが、どうしても年齢的に無理だということで、そのまま市が今度は運営をするようになっておりますが、そこら辺の中で、部長でも結構ですので何人在籍をして、どのような仕組みでやっておられるのか、そこら辺が分かれば少し教えてください。

○議長（初村　久藏君）　教育部長、八島誠治君。

○教育部長（八島　誠治君）　春田議員の御質問にお答えいたします。

「みちしるべ」の運営ということでございます。「みちしるべ」につきましては直営となりましてから学校教育課長が所長ということで、また指導員が１名、それから講師を授業によって雇ってから毎週月・水・金曜日に子供たちの利用という形で運営をしております。利用者につきましては、年間、昨年度で実績としましては２４３名、保護者の方も相談等利用をされますので８５名、その程度の利用となっております。

以上です。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　ありがとうございます。そういうふうに人数も年間２４３名そこに通所されて精神的な問題、あるいは家庭の問題、いろいろな問題解決に御尽力をいただいている皆さん方に感謝申し上げるわけですが、やはり全島で市立の小学校、中学校、幼稚園あります。やはり私としても厳原だけではなくて上のほうにも、上・中・下というふうに行政区のほうも割り当てて進めていこうかというふうな中でありますので、やはり上のほうにも一つ設置をしていただいて、子供たちも保護者もそうなんですが家庭教育というのが非常に難しくなっております。学校教育だけで子供は育ちません。私もそれは経験をしております。

そういうことで、ぜひ上のほうにも一つどこかいい場所に設置ができれば、私は望んでおりますが、教育長、そこはどうでしょうか。

○議長（初村　久藏君）　教育長、永留和博君。

○教育長（永留　和博君）　今、議員がおっしゃるように上地区にも必要性がもっと高まってくれば設けなければならないと思います。

今、下地区に設置をしている理由というのは、やはり不登校の子供たちの数が下地区に非常に多かったということと、上地区には少なかったという状況のもとで、まずスタート時点としてフ

リースペースの引き継ぎもありましたし、そこからスタートをしております。

上地区のほうでどうしても必要となれば、また例えば指導員を増やして上地区に派遣をして、どこか場所を設けてやっていくという方法もあるんじゃないかなとも思います。また状況を見ながら検討をしていきたいというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　ありがとうございます。教育長は現場上りですので、よく学校のことは御存じであろうというふうに思います。

今、教育長さんが言われましたように非常に難しい問題で、家庭の中まで入ってそういうことができませんので大変難しいと思いますが、やはりそこは、今、教育長さんが言われたのは、その現状でありますので、しかし、その中には学校でいじめとかあって不登校になろうとしている子供さんもいらっしゃるんじゃないかなというふうに思います。そこはそこで分かりづらいところ、結果が出ないところはあろうかと思いますが、学校側とも連携を取りながらそういう方向も計画的に進めていただいて、そして必要になったときには、ぜひお願いをしたいなというふうに思います。よろしくお願いをしておきます。

それと、教育長もう１点ついでと言ったらなんですが、昨日の質問にもありましたように、子供さんたちが遊ぶところ広場、教育施設といいますか運動公園の中にある遊具等の整備、これも非常に見る限りでは遊べる状態ではないようなところも見受けられます。その辺のところも優先順位でやりますという昨日の答弁も聞き及びましたが、なかなか難しい問題であろうなというふうに思います。

そこで、あとから出ますが、これも市長、シルバー人材センターでそういうような技術を持った人もいっぱいおられますので、そういうようなところと契約ができて、そこで清掃、あるいはブランコの点検、ちょこっとしたネジの締め付けとかできますので、そこら辺を全体で考えていただいて連携を取りながらやっていただくのも一つの手かなというふうに思います。

優先順位を決めてということですが、我々は優先順位がどうなっているのか分かりません。今聞いても、皆さんも優先順位といったらなんやろうかと思われるかも分かりません。それはもう行政の優先順位を決めて、１番目はここ、２番目はここでやっておられるのはよく分かります。財政面もありますし、予算の面で、ああ、今年はここをやろうというようなことになっていくんだろうと思いますが、やはりそこはそこでこの広い対馬の中ですから、そこまで行けないわけですから優先順位の一番を豊玉に作った、比田勝から行かれますか、行かれませんよね。そういうことも考えながら、このシルバー人材センターの組織化に向けて、また組織ができた暁には皆さんで考えて、そして皆さんで思い切り協力をしていただいて、そして高齢者の生きがい、そして働く場、そういうものを作っていくのも、今から先、市長が先ほど言われましたが、法人化して

やっていくんだということですから、そこら辺も見込んでやっていかなければいけないと思います。

また、私も気づいたんですが、通学路の点検の折にちょっと気づいたんですが、そういう通学路のガードパイプ、手すりなどの清掃とか、少し歩道の少しある除草とかそういうものも、随時そこをシルバー人材センターに頼んでやってもらうようにすれば、行政側の大きな入札とかそういうのを待つ必要もありませんし、そういうのを年間行事の中にシルバー人材センターに組み込んでもらってやっていくような形式も、今からは考えられるんじゃないかなというふうに思いますので、そこら辺も各部署でよく協議をされながら連携をとってやっていけば、スムーズにいくんじゃないかなあと。

我々大人が子供のために何をするかということを考えれば、大人がやっていかないと子供はできませんので、子供が健康でみんなで対馬の宝を育てるんだということについて、もう少し頭をひねっていただきたいなというふうに思います。

それでは、次に移ります。次は高齢者が健康で生きがいが感じられる環境づくり、環境づくりといいますか、前回の全員協議会でもありましたように過疎地域が増える対馬、非常に今一番苦しい問題で市長もあろうというふうに思います。それの中で総合計画あるいは総合戦略を組み立ててやっておられます。非常に長い島ですので大変なところもあろうかと思いますが。

先ほどシルバー人材センターの実績あるいは会員の数等を市長のほうから答弁いただきましたが、会員の皆さんも気持ちよく入っていただいて運営ができているなあと。それと受託量もかなり増えております。本部で受注件数が４７８件、本部ということは厳原だというふうに思います。日数が１，５８９日、金額が１，１０５万６，６５４円というふうに、このように金額、仕事をされているんだなあと、すばらしいなあというふうに私も思うんですが、大きなもう企業であるんじゃないかなというふうに今思っているんですが、中支部としては４９件の６２日、でも金額的には結構１０３万３，０２４円という実績が上がっております。上支部で言いますと４４件の１６１日、２５０万１，７２５円という実績で上っております。

非常にこのようになってくれば、すぐ法人化もできるしすばらしい組織ができてきます。高齢者の皆さんも大変でしょうけど、やっぱり生きがいづくり、そして長生きをしていただく、こういうことにつながっていくんではないかな。今からその組織がきちんとなれば、これもやはり高齢者の交流の場あるいはコミュニケーションの場、そういうところにつながっていけば、地域も活性化していきますよ。そういうことも考えながら今後力を入れて、これも社協のほうに委託をされておりますが、職員も６名ということで、職員６名ということはちょっと少ないんじゃないかなというふうに思いますが、それはそれでシルバー人材センターですから職員に頼ることなく、自分たちもいろいろな仕事を見つけたり、そして一緒になってするのがシルバー人材センターの

事業でもあろうかというふうに私は思っております。そこら辺も重視しながらこの取組を強化されるといいんじゃないかなというふうに思っておりますので。

市長、今、教育長のほうにも話をしましたが、そういうことでこのような実績とこのような力のある組織づくりができているわけですから、業界に入札でする仕事は仕事でいいでしょう。しかし、それ以外に地域の皆さんから、「ここはこうやったよねえ、ああやったよねえ」という時に、ちょこっとできるそういうことをもう少し力を入れていただきたいなというふうに思いますので、ここもひとつよろしくお願いをしておきます。

それから、市長が特に力を入れておりました軽度生活支援助成事業ということで「ちょこっとサービス」、これも今、実績がちょこっとサービスですのでワンコインでできるサービスですので、金額的にはもう上がりませんが、件数は結構いっていますので、これももう少し広めていくためのＰＲ、これが大事じゃないかなと思います。全然分からない方もおられるんじゃないかなというふうに思いますし、これを広めていくことによっていろいろなコミュニケーション、地域、包括そういうのにもつながるし、やはりこれは大事な事業であろうというふうに、まあ、本当のちょこっとですから、ちょこっとと言えばちょこっとですが、これいい事業じゃないかなと。

その高齢者の自分たちができないところに入っていただいていろんなこと、電気の器具を取り替えてもらったり、ふすまを張り替えてもらったりそういうことができるということは、これは本当に高齢者同士のコミュニケーション、そしてまた、地域の活性化に私はつながっていくというふうに思いますので、そこを今後、地域でリーダーというかそういう人がいなければ、なかなかこれは進まないと思うんですよね。

行政がじっとしておっても、回って行かなければ分からないわけですから、そこら辺がネックになるんじゃないかなと思いますが、市長の考えがあればお聞かせください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　このちょこっとサービスの実績は、議員も今おっしゃられたように利用回数が４４回ぐらいということで、まだなかなか市民の皆様にも浸透していないのではないかなというふうに思っております。

そういったところで、まず一番何がネックになっているのかということをいろいろと担当職員とかにもヒアリングをしてきたところでありますけども、まず３０分以内でできる業務を対象にするというようなことから、このことについては地域の支え合いの支援を受けている地域、こういった地域については、もう既に自助・共助、こういったところができているというようなことで、なかなか広まっていかないのではないかなというようなことを、こちらとしても捉えております。

それと、もう１点が対象者が７５歳以上の高齢者の世帯、そして、また７５歳以上の高齢者と

障害者のみの世帯というようなことでありますので、ここら辺の周知がまだまだちょっと不足をしているのではないかなということであります。今後もＣＡＴＶやら生活支援のコーディネーター、そしてまたケアマネージャー等に事業説明会等を重ねながら、市民に深く浸透を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　市長の答弁のとおりなかなか難しい、その自宅に入り込んでやらなければいけないということで難しいことなんですが、やはりこれは７５歳以上ですから社協が担当するところでありまして、社協が担当する地域にあっては民生委員さん等々がおられますので、そこら辺もうまい具合に組織の中に入れていただいてやっていくことで成功するんではないかなというふうにも思っておりますので、そこら辺も各部署で連携を取りながらやっていただければというふうに思います。

こうして高齢者の方が生きがいを持って、この対馬に住んでよかったと思われるような島づくりにしていかなければいけないし、また困ったことをしてやって助けてやるのがお互い人間でございます。この対馬の人情味のある対馬のこれが本当の私は仕事ではないかなというふうに思っておりますので、今後も力を抜くことなく頑張っていただきたいというふうに思います。

最後の質問になりました。少子高齢化が進む中で地域においては見守りや交通、買い物支援等の整備ということで上げております。

一回、この質問も取り上げましたが、なかなか高齢者が買い物あるいは病院等々に行かれる場合の対策がまだまだ十分ではないんじゃないかなというふうに思います。それで、どのような対策を練ったらいいのか、どのようにしていけば買い物弱者がゼロになるのか、そして、また病院やら買い物に和気あいあいでいけるのか、そこら辺が大きな問題になってくるわけであります。

ここで１つ紹介をいたしますが、ＥＳＤ発表会で対馬高校生が政策提案ということで、「買い物弱者ゼロにしよう」という発表会があっております。これも比田勝市長も出席をされております。そういう中で子供たちが、買い物弱者に焦点を当てて市にヒアリングするなどして調査を重ねてきた。

発表では、市の調査で移動、交通に困っていると答えた高齢者は１１．５％ですから、全体で調べてあっていないと思いますが、データを示し、これらの方々により豊かな生活を送ってもらうことが最大の課題と指摘、その上で免許自主返納者への支援強化、宅配サービスや移動販売の充実、自動運転バスの導入も見据えたバス路線の改善、商店と過疎地域の連携を提案をされております。非常に我々で浮かばない高校生らしい、すごい発想だというふうに私は感動をしておりますが、市長もその場で回答もされております。非常に高校生らしい、すばらしい発表会だった

ろうなあというふうに私は、今、自分で胸のうちで考えておるわけですが。

やはりそういうふうな子供たちもこういうふうなことを考えてやっている。お互いに子供も大人も一緒になってやっていかなければいけないんだということに、私は感銘を受けておるわけですが、市長もその場におってあるんで、少しだけ心の内を聞かせていただきたいというふうに思います。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君）　議員おっしゃられるように、高校生としての視点から見たときに、やはりそういったところが不足をしているよというような、私も新鮮な意見として拝聴させていただきました。

そういう中で、今度の拡大事業等におきましても、特に上地区のほうもスーパー等が今度、買い物支援での宅配も始めていくということが計画もされているようでありますし、下地区のほうもコンビニとかほかの関係もそういった計画がなされてきているようであります。

行政だけではなかなか難しいところをそのような形で民間主導でやっていただくということに対しまして、私も感謝をしているところでありますので、このような施策がもっともっと市民を巻き込んで充実していくような形にしてまいりたいというふうに思っております。

以上であります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、春田新一君。

○議員（１０番　春田　新一君）　ありがとうございました。優しい市長の心意気をお聞かせいただきました。頑張っていただきたいと思います。

民間を巻き込んで、今のところ行政は行政、民間は民間というような形が見受けられるところが多々あろうかというふうに思いますが、やっぱり民間も巻き込んで一緒になって、この高齢者あるいは子供たちを守っていかなければいけない、これが大きな責務だというふうに思いますので、そこら辺にもう少し支援を拡充しながら、また努力をしていただきたいなというふうに思います。

最後に１点だけ、ちょっと通告から外れますが議長の許可を得ておりましたので、何回となくこの質問があっておりますが、バスの待合所、非常に見苦しいところが結構ありまして、我々も何回も質問で答弁を受けて聞いております。しかし、非常に対馬の中の国・県・市道の待合所というのが非常に見苦しいようなところがいっぱいあるわけですよね。

それと一番優先的に、行政が優先的と言いますので優先的に取り組んでもらいたいのが美津島の商工施設、ここの幅が歩道から４メーターなければバス停が作られないというような答弁も、私も聞いて、なるほどなというふうに思いましたが、やはりそこには商店を構えてある一般の事業者の方がいらっしゃいますので、そこと協議をされながらその面積が足りないから建てられな

いんだじゃなくて、そこを進めていただきたいというふうに思いまして、終わります。

○議長（初村　久藏君）　これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　昼食休憩とします。再開は午後１時からといたします。

午前11時59分休憩

午後１時00分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

報告します。波田政和君より、早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。９番、脇本啓喜君。

○議員（９番　脇本　啓喜君）　皆さんこんにちは。会派自公・協働９番議員の脇本啓喜です。

支持者の方々や市民の方々から、脇本議員の質問はわかりにくいというふうに御指摘、御批判を受けております。今回、特に目新しい分野に取り組むので、ますますちょっとわかりにくい部分はあるかもしれません。それで、市長には、釈迦に説法でしょうが、市民にもわかりやすくということで、説明的にちょっと長くなるかもしれません。御了承ください。

それでは、前回の一般質問では、どういう手法で対馬市をよりよくしていくのか、つまり市民協働を普及させ課題解決に当たっていくよう対馬市に促すことを述べました。

証拠やデータに基づく政策立案の重要性が説かれて久しい昨今、正確で新しい情報収集が求められます。今回は初めに、取り組むべき項目の優先順位づけのポイントを２点述べます。

パネルの１をお願いします。持続可能な発展を遂げるためには、優先課題選定とその解決への切り口、それを市民と共有していくことが大事だというふうに思っております。

最近私は、本の概要を解説するユーチューブをよく視聴します。直近では、安宅和人著「イシューからはじめよ」を購読しました。多くの課題がある中、何を選択しどういう手法で課題解決に取り組むかが重要です。よいイシューとは、スタンスが明確かつ行動の変化をもたらす常識を否定しているもので、よいイシューを特定するには一次情報の収集が重要だと説いています。このイシューというのは、課題を何にするか、そしてどういう切り口でいくかということです。すなわち、優先順位づけの第１点目のポイントは一次情報の収集分析に基づく正しい現状把握だと思います。

もう一つは、世の中がどういう方向に進んでいるか、すなわち的確な将来予測であり、具体的には現在進行中のＳｏｃｉｅｔｙ５．０により近い将来どのようなことが可能となるかをしっかり認識しておくことが重要だと感じています。ここでＳｏｃｉｅｔｙ５．０とは何かについて触れておきます。